発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033～4
編集兼発行人　杉本一男
半年間　1,800円　送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
0968946－005

産炭地の声、どどけ

存亡かけてたたかう当面の行動

第八次石炭政策の答申が大幅に遅れていますが、すでに日程的にぎりぎりのところにきており、九月中がヤマ場であることから炭労は、答申に向けた最終盤のたたかいの推進について指令し、各支部を中心とした産炭地でも全力をあげたたかいに入っています。

答申をめぐる情勢は、当面する炭価・需給問題の解決が長びき、具体的な日程はなお流動的ですが現状では、二十五日答申原案提示、十月二日本格答申になるという予測でたたかいを進めます。

経構研報告、石鉱審の中間答申以後、基本的には答申の内容に変化はなく、①五年以内に一千万トン以下への縮小、その後も総撤退へむけた縮小、②原料炭は五年以内にゼロ、一般炭シフトへの競争激化、③六十一年度炭価引き下げ打開のための合理化攻撃、④産炭地域での失業者の増大と地域の崩壊、⑤炭労組織の縮小ないしは崩壊、などが急速に進むものと判断されるため、答申までの間最終盤のたたかいを挑み、答申以降についてもヤマの雇用と生活を守るために不退転の決意でたたかわなければなりません。

具体的には、①炭価・需要の適正な解決、②答申原案および本格答申へのたたかい、③本答申後のたたかいを、中央・各支部・諸団体・産炭地ぐるみで可能なかぎり取り組むことにしています。

なお、中央・各支部・産炭地でも行動を展開していますが、当面の三池での行動は次のとおりです。

行動の大要

①大牟田市内戸別ビラ配布
配布総数　四万枚
9月17日～20日
※配布は各校区別単位となるので三池労組は、各地域分会で駛馬北、駛馬南、三里、玉川、笹原校区を担当します。

②大牟田市内街頭ビラ配布
9月21日（日）午後1時から
9月22日（月）午後5時から
※両日とも大地評集合、三池労組から執行部を含んで十人参加。職場分会割り当て動員。

③大牟田市内ニュースカー情宣
9月21日～27日　9時～16時
ニュースカー三台による情宣。
※三池労組は職場分会割り当てで、執行部を含めて三人あて参加します。

④第二次市役所前座り込み
9月24日～26日　8時～18時
16日～17日　執行部入坑点検
22日　ニュースカー情宣開始
24日　市役所前座り込み開始
27日　三川鉱前座り込み開始
27日　9・28災害抗議集会
27日　保安委員会
28日　福岡県評決起集会

うごき

9月9日　実行委高島労組激励
10日　第2回委員会
13日　有明災害保安団交
16日　第1回地域分会長会議

3日から無期限の座り込みに入った高島の仲間たち。

マスコミは撤退路線の見通しを伝える。通産省は否定するが、事態はきびしい。

有明鉱で死亡災害

三池労組、時限ストで抗議

四日午前四時ごろ、有明鉱（池田勤鉱長）の坑口から四千四百八十三メートル、深さ四百三メートルの本層西一卸本卸三目抜貫通口で幅三・三メートル、長さ三メートル、厚さ一・二メートルにわたって落盤があり、作業中の掘進員福永松善さん（四十五歳）が罹災し、全身打撲によって即死状態で死亡されました。

心から哀悼の意を表します。三池労組は災害に対する抗議と保安確立を求めて五日、一時間五十分の時限ストライキに突入しました。

この災害では、従来から要注意とされている貫通口の対策が十分であったか。さらに点検と作業指示、坑道規格などで問題があり、三池労組は会社側に保安団交の申し入れをおこない、十三日午後三時から交渉がおこなわれました。

新港社宅撤去で合意

貯炭増による貯炭場造成を理由に七月八日に全面撤去の提案をうけ、三池労組では地域を含む諸要求にもとづいて交渉をおこなってきましたが、このほど、転居の条件について最終的にまとまり、地域の全員集会で確認し、九月中に転居することになりました。なお、地域分会は二十一日に解散大会を開きます。

9・28 坑内火災 抗議集会

とき　9月27日(土) 午後5時30分
ところ　三川鉱正門前

機関構成

執行部

組合長　中原　一　非常任
書記長　田口　芳博　常任
労働部長　森　のぼる　非常任
組織部長　芳川　勝　非常任
厚生部長　松岡　大喜　非常任
編集部長　杉本　一男　非常任
会計監査　田中　教幸　非常任
会計監査　田中　國洋　非常任

議長団

議長　小柳　康治　3分会
副議長　栗野　親生　1分会

委員

1分会　◎栗野　親生　四山常一
1分会　大島　義幸　四山常一
1分会　川野　房雄　四山は方
1分会　富川　澄雄　四山常一
2分会　大野　源六　三川甲方
2分会　◎古沢　栄一　三川乙方
2分会　北村　存　三川丙方
3分会　◎松本　剛泰　三川常一
3分会　津波古文男　三川常一
3分会　小柳　康治　南新開
4分会　◎松尾　進　三川坑外
4分会　桃島　敬三　三川坑外
5分会　◎緒方　正人　三川万田
5分会　池畑　重富　三川新港
6分会　◎米村　稔　本所
6分会　関戸　輝雄　本所
7分会　◎市成　義弘　港務
◎印は分会長。

保安担当者

監督員補佐員　村上　和行　三川
保安委員　江崎　嘉徳　四山
保安委員　黒田　勝儀　三川
保安委員　米村　稔　本所
安全推進員　壇　和磨　四山
安全推進員　朽網　勝喜　三川
安全推進員　関戸　輝雄　本所
安全衛生委員　猿渡　章博　港務
懲戒委員　松本　剛泰　3分会
懲戒委員　市成　義弘　7分会
懲戒委員　大島　義幸　1分会
懲戒委員　森　のぼる　執行部

専門委員

健保理事　栗野　親生　四山
健保理事　津波古文男　三川
健保理事　松岡　大喜　執行部
健保議員　池畑　重富　三川
健保議員　米村　稔　本所
健保議員　角　清美　本所

健保関係

監督員補佐員　古閑　良男　掘進
上津原隆成　運搬
栗野　親生　仕繰
大島　義幸　機械
酒本　忠義　電気
村中　利行　坑外
大野　源六　採炭
北村　存　掘進
戸上謙次郎　運搬
古沢　栄一　仕繰
中富　和博　機械
松本　剛泰　電気
松尾　進　坑外
懲戒委員(副)古沢　栄一　2分会
裁定委員　松尾　進　4分会
裁定委員　栗野　親生　1分会
裁定委員　大野　源六　2分会
裁定委員　芳川　勝　執行部
裁定委員(副)北村　存　2分会

生産委員

地底

▼…「鯖うまくなりて九月や雨ばかり」（草間時彦）。秋雨前線が断続的にやってきて一雨ごとに秋の風情がしのび寄る。二百十日、二十日と台風の時期といわれるが、大きな被害をもたらすのはむしろ下旬のようだ。

▼…自衛隊機が墜落、ミサイルまで飛び出すような事故がつづいたかと思うと、核戦艦ニュージャージーの佐世保入港。日本海での大演習。一方的では藤尾文相の韓国問題での暴言と罷免、SDI参加など、「世界の平和と安定」との国会演説とは似ても似つかぬ事態が突出。非核三原則も一％枠もウソのまたウソに――。

▼…八十日間の長―い臨時国会の開幕、同時選挙での自民大勝を背景に「公的の実現」を強調するが、国鉄分割民営化、老人保健法、補正予算・円高対策、税制改革など、どれをとっても国民の暮らしは圧迫されそう。平和、政治姿勢、民主主義の課題も山積するが、長期政権をねらう「中曽根政治」の完結を許すわけにはいかぬ。

▼…「三菱資本は高島を見殺しにするな」「三菱グループの責任でヤマとマチを守れ」と、高島での座り込みがつづく。圧制ヤマの歴史はそっくり三菱王国形成の歴史であり、発祥の地でもあるが、八つもの海外炭鉱に投資する三菱があってみれば、一つ二つのヤマを潰すのに未練もないわけだ。それはまた、三井も同じことか。

▼…いよいよ土壇場の〝答申〟が出る。中曽根演説が「国際協調型経済構造への変革」を強調し、〝前川リポート〟推進をうたうかぎりなんの期待も持てない。石炭と農業を犠牲にして「世界に貢献」すればするほど国内の矛盾は激化する。「総論賛成」「これだけは反対」といっても、「切り捨て」を阻止することにはならぬ。